

<対策のポイント>

我が国のハウス面積が減少する中で、施設園芸をさらに発展させていくためには、国内外を問わず、これまでに施設園芸の進出していない地域や、生産物のニーズがある地域に進出し、現地生産を行うビジネスモデルを進めることが有効です。また、スマート農業の新規市場の開拓は、将来的な量産化の実現などへの寄与も大きく、積極的に進めていくことが重要です。このため、先駆的な事業者による**スマート技術を含む施設園芸の現地生産の事業化可能性調査を支援し、スマート技術も駆使した施設園芸の開拓を促進**します。

<事業目標>

- これまでに施設園芸の進出していない地域に生産拠点を持つ企業を年間3社増加
- 農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践 [令和7年まで]

<事業の内容>

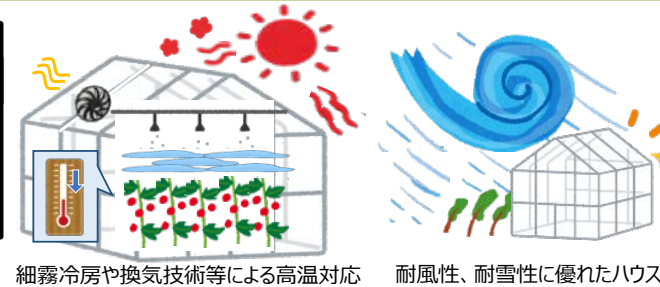
<事業イメージ>

○ スマートグリーンハウス先駆的開拓推進

農業者や法人・企業が、国内外を問わず先駆的に進出してスマート技術を含む施設園芸の現地生産に取り組むにあたり、課題となりやすいポイントごとに、**本格的な事業化に先立った事業化可能性調査を支援**することにより、スムーズかつ低リスクな事業化を推進します。

我が国の優れた施設園芸の技術

- ◎ 優れた品質
- ◎ 過酷な高温条件への対応
- ◎ 高い耐候性等



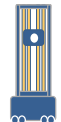
スマート農業技術の進展



環境制御技術



収穫ロボット



生育測定機器

<事業の流れ>



◎ 施設園芸の現地生産、スマート技術の導入における課題の早期発見・解決を支援

- ・事業化可能性調査
- ・スマート技術の改良等

国内外を問わず、スマート技術も駆使した施設園芸の先駆的開拓を推進